

西尾市民病院  
中期計画等評価委員会意見集

西尾市民病院

令和2年12月15日

## 目 次

- 1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について . . . 1
- 2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について . . . 1
- 3 各委員からいただいたご意見に対する実施状況について . . . 2～3
- 4 各委員からいただいたご感想等について . . . 4
- 5 今後の予定について . . . 5

## 1 西尾市民病院中期計画等評価委員会の概要について

西尾市民病院中期計画（以下、「中期計画」という。）は、平成26年度、当院が地域に求められる医療を安定的かつ永続的に提供していくための基本方針として定め、市民参画のもと、西尾市民病院中期計画策定委員会で策定されたものです。

改革プランは、平成27年度末に、国から公表された公立病院改革ガイドライン（以下、「ガイドライン」という。）に従って策定されたものです。

内容は、愛知県の地域医療構想との整合性を図りつつ、中期計画の基本方針を補完する具体的な事務事業を定めたものです。

策定後の進捗状況の点検・評価について、ガイドラインでは、市民参画のもと検討することが望ましいとされているため、当院では、西尾市民病院中期計画等評価委員会を設置し、ご意見をいただくこととしました。

## 2 西尾市民病院中期計画等評価委員会の経緯について

平成30年度から西尾市民病院中期計画等評価委員会を開催し、改革プランの進捗状況の点検及び評価を行ってききましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、参集しての会議の開催を見合わせ、書面による意見聴取を行うことで、点検や評価を行いました。

3 各委員からいただいたご意見に対する実施状況について

番号	取組項目	各委員からいただいたご意見	実施状況の詳細	
1	1 HCU等重症病床の新設	HCU等重症病床の新設は地域包括ケア病棟と併用できないことになっている。また、地域医療構想や医療福祉計画の整合性も考慮して、すべてが未達成になっているが、なぜプランに入れたのか？	改革プラン策定時においては、収益への貢献度等からHCU新設よりも地域包括ケア病棟（平成28年10月から1病棟→2病棟）を優先することとしました。しかし、より高い医療の提供を目的としたHCU新設の必要性や収益の貢献度も高いため、改革プランに検討事項として掲載しました。現状の経営状況等を総合的に勘案し、人員配置や施設整備への投資が困難な状況のため、引き続き検討案件となっている状況です。	
2	4 健診・人間ドック事業への参画	超高齢化社会を迎え、検診・人間ドック事業の早期実現に向けて体制の確立と市民への啓発を積極的に進めることが必要であると感じます。	脳ドックに加え、平成30年度に心臓ドック・令和元年度に乳がんドックを開始しており、ホームページに掲載し広報にしておでも定期的にお知らせしています。検診・人間ドックの実施については、施設が検診用となっていないこと（外来患者さんと動線が交差する。専用の更衣室がないなど）や検査技師、医師等の人員配置の問題もあり実施する予定はありません。	
3	5 専門外来の開設・強化	専門外来とは反対の発想だが、内科系の総合診療外来を設置してほしい（安城更生病院の「一般内科」外来、藤田医大岡崎医療センターの「総合診療科」外来に相当するもの）。診断・病名が確定しないケース（例：高熱のみ）の精査を依頼できるようにしていただきたい。	専門外来とともに「総合診療科」「総合内科」等を設置することにより、救急患者、紹介患者の受け入れを増やすこと、当院の特色を出していくことを目的としています。現状では十分な医師確保が出来ていないため、今後とも、医師確保に努めてまいります。	
4		資料より初めて、いくつかの専門外来の存在を知りました。こんなに誇れる存在を知らなかったことを、本当にもったいないことだと感じます。広報での連載も拝読しておりますが、市民にとって病院のアピールをする貴重な場だと思うので、今後もぜひ続けていただきたいです。	病院の広報としては、広報にしおに連載している「市民病院のいま」、中日新聞LINKEDによる広報誌「ciao」、ホームページやSNSによる情報発信などを行っております。今後も機会あるごとに病院を知っていただくためのPRIに努めてまいります。	
5		9 救急患者受け入れの強化	開業医からの患者紹介（特に当日に依頼する救急対応を要する患者）については、不応需事例をなくして、できる限り受け入れをお願いしたい。	現在、救急患者の受け入れに関する体制強化のため医師の増員も含め仕組みを検討しております。今後も、できる限り受け入れを行えるよう、努力してまいります。
6		1 収益向上に向けた取り組み	現在、常勤医のいない産婦人科、泌尿器科については、常勤医の確保と外来受け入れ再開をお願いしたい。また、入院に対応できない診療科（神経内科など）は、入院管理が可能な医師の確保をお願いしたい。	平成22年10月から休診しています産婦人科、前立腺治療や尿失禁などを扱う泌尿器科には常勤医が必要であると考えていますので、現在、市長はじめ、院長、副院長が先頭に立って、愛知県や大学医局を訪問して医師派遣をお願いしているところです。また、神経内科についても入院対応ができるよう現在、常勤医の確保に全力を尽くしております。これらすべての診療科を一度に実現することは難しいですが、一歩一歩実現に向けた取り組みを前向きに進めてまいります。
7	11 医師の確保	常勤医師が一人もいない診療科は極力無くすべきだと思います。特に産婦人科の診察は多くの女性市民が望んでいると推測します。	最近でも、市民から「産婦人科が欲しい。」とのご意見は寄せられています。市民の安心・安全を守るため、市内に産婦人科の開業医は1か所しかなく、自治体病院としては常勤医を復活させたい診療科の一つに違いありません。全国的に医師不足ですが、市長をはじめ、院長や副院長が先頭に立って、愛知県や大学医局を訪問して、粘り強く常勤医師の派遣をお願いしたり、医学生に奨学金制度をPRして当院の魅力を発信したりして、医師確保策を継続実施してまいりたいと考えております。	
8		医師確保の取り組みについて、引き続き工夫と努力が期待されます。健診・人間ドック事業への参画の目標指数（人間ドック受験者数）や専門外来の開設・強化の目標指数（1日当たりの外来患者数）また地域包括ケア病棟増設及び安定的な運用の構築の目標指数（1日あたり地域包括ケア病棟入院患者数）等々、未達成の項目の多くは医師不足が要因となっています。このことから医師の確保が最重要課題であることや医師確保の困難さも周知のことですが、引き続き工夫と努力を重ねていただきたいと思っております。そういった状況の中での医師確保の取り組みで、「5卒後臨床研修評価機構の認定取得」は昨年の一部達成から元年度は達成になっていて、医師確保の基盤づくりが少し進んだのではないかと思います。	NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の臨床研修病院研修評価におきまして認定を受けたということは、臨床研修病院として研修体制が確立されており、教育環境が整備されていることが認められた証となります。認定されたことの効果は、医学生から病院の信頼度がさらに向上し、研修医への指導体制について、自信をもってPRできるお墨付きをいただいたものと考えております。このような体制づくりを進める中で、研修医の確保につきましては、配分をされた定数枠について、令和元年度採用が3名、令和2年度採用が4名、令和3年度採用が5名と、年1名ずつ増やすことができ、配分率での募集に対し、採用数もフルマッチが続いており、将来的な医師確保に希望が持てる結果を出してきていますので、今後も実績を積み重ねて継続して信頼が得られるよう努めてまいります。	
9	16 未収金対策	未収金対策で周知については達成とあるが、徴収できた金額が半部ほどであるが、残りを回収できない根本的な理由は何か？	未収者の主な理由は、生活困窮者や、死亡された方で家族と連絡が取れない方、外国人で住所を有したまま出国する等、行方不明になっている方です。特に生活困窮者については、公的医療機関として、未収を理由に診療拒否もできないことから、どこの公立病院も未収金対策については苦慮しているところであります。	
10	17 戦略的広報の展開	広報利用してのPRIは市民病院がどのような検査や医療ができるか理解することができ、何かの時にはいいと思う。 "リンクト"はふれあいセンターで目にしたが、もう少し具体的な内容が欲しい。配布場所に医療機関や老人福祉施設は？ 院長様はじめ皆様の努力が目に見えてきていると感じております。	"リンクト"は、市役所をはじめ各公共施設や医師会などに配布しています。内容については、いただいたご意見を参考とさせていただきます。	

3 各委員からいただいたご意見に対する実施状況について

番号	取組項目		各委員からいただいたご意見	実施状況の詳細
11	2 適切な費用管理に係る取り組み	2 適正な人員管理	子育てにより離職された潜在看護師の方々が、幼稚園にはたくさんみえます。幼稚園に入れてしまったため、時間的に復職が難しいようです。そんな方々が短時間でもできる勤務形態があり、そのことにより現看護師の方の業務が軽減されることができれば良いかと、素人ながら感じました。	現在、日勤帯で勤務する看護師は充足しており、夜勤のできる看護師が不足している状況です。しかしながら、令和3年4月から看護師を25名採用できる見込みとなっているため、退職者の状況にもよりますが、適正数に近づくものと考えております。
12	4 患者サービスの充実	—	達成率の%を目にすると芳しくない数値もありますが、進捗状況表を拝読すれば地道に努力しておられることが理解できます。患者サービスの進捗が低いのは気になります。患者サービスからもう一步踏み込んで、ホームページによる西尾市民病院ならではの健康に関する情報提供という市民サービスをも期待している処です。	市民病院から健康に関する情報を積極的に提供していくための仕組みとして、今年度は、中日新聞LINKEDが運営するSNSサイトとリンクし市民病院の公式LINEアカウントからお知らせする仕組みを構築しました。また、糖尿病教室を定期的に開催するなど、誰でも参加できる健康講座を開催しています。コロナ禍において、大勢の方が参加する形での講座が開催できない中、今後は、インターネットを通じた健康講座の開催に向けた仕組みを検討しております。
13	—	—	概ねすべての項目で医師や看護師の人員不足が理由で、未達成との回答であるが、人員不足を解消すれば本当に達成できるのか？また、そのことで人件費の増額と医業収益との損益分岐点はどのようになるのか？	医師一人当たり収益は、平均して1億5千万円程となります。一方、医師一人当たり人件費の平均は2千万円程となりますので、差し引きますと、医師一人につき1億3千万円程の利益が見込まれます。現在の計画(必要)医師数58人に対し、現在の医師数は42名でありますので、不足医師数は16人となります。仮に16人全員が確保できたとしますと単純計算で、20億8千万円の収益が見込まれます。あくまでも医師数のみに視点を置いた試算であります。令和元年度決算の純損失額は7億6千万円でありましたので、不足医師の想定収益を加味し差引しますと、損益分岐点を大幅に超え、経常黒字転換を果たすことが可能と判断できます。しかしながら、集患にあたっては、医師数の確保は非常に重要であります。その前段として、当院が市民に信頼され選ばれる病院でなくてはならないと認識しております。引き続き、当院は、医師確保と当院の信頼度向上に向けて取り組んでまいります。
14	—	—	未達成から達成になった項目の要因が分析されると次年度も達成が継続されると思います。例えば、10がん診療機能の充実8目標指数(放射線治療件数)が今年の未達成から達成になっている要因はどこにあるのかなど。	ご意見のとおり、各取り組みの目標達成の継続性が病院の安定経営につながるものであると認識しております。未達成が達成となった取り組みが単年度限りとならぬよう、また、各取り組みの実績値の更なる向上、或いは拡充に向けて、改善内容の分析をしてまいります。昨年の未達成から達成になっている要因は、主に呼吸器内科、乳腺外来において、利用促進を図りました。また、各種検診による早期発見や、地域のがん診療連携拠点開業医との連携強化や緩和ケアに関する職員の強化したことが主な要因です。

4 各委員からいただいたご感想等について

番号	各委員からいただいたご感想等
1	<p>丁度良き時期に広報にしお10月号にて、西尾市民病院の記事を読みました。タイトル通り「市民病院のいま」を周知してもらう良き特集でした。</p> <p>コロナ禍が病院経営に影響が出ていることはマスコミで報じられていますが、西尾市民病院は如何なものかと気になります。</p> <p>そこで、西尾市民病院のホームページを検索しました。お目当ては見つかりませんでした。そして、病院としてのコロナ対策とか個人としてのコロナ対策とかを探しましたが、検索が甘かったのか、見当たりませんでした。また、仮に自身がコロナとかインフルエンザ罹患の疑いがある場合はどうすれば良いのか、こういう記事の記載やリンクが有れば西尾市民病院のホームページ閲覧者は増えていくと思います。</p>
2	<p>内容についての意見はありません、やはり、医師不足が、一番、ご苦労されているのが、わかります。</p> <p>広報にしお「市民病院のいま」を読み、西尾市民病院で働く医師の実情、データに基づく救急医療の実態も知ることができました。</p> <p>医師数60人 救急車受入数・年4,350台 医師一人当たり救急車72.5台と他病院とのデータで突出していることを知りました。数多くの救急患者を西尾市民病院は診ている、そこで頑張っている医師がいらっしゃる、救急の適正利用・本当に危険な患者でなければ、利用しない、医師数が少ないから、診られない患者が、かかりつけ医の選択の必要性がある。市民病院には、とても優れた医師やスタッフの存在も知る。</p> <p>広報で事実を知ることができました。多くの方に知らせることができる。</p>
3	<p>広報にしお(10月発行)を読ませていただき、西尾市民病院にお勤めの優秀な医師、看護師の方々が患者さんと真剣に向き合い、2次救急病院として地域医療に最善を尽くされている様子がよく分かりました。</p>
4	<p>広報活動が積極的に取り組まれていることが評価できると思います。</p> <p>委員会のメンバーから広報活動を積極的にという意見が出ていましたが、令和元年度は下記の取り組み項目から、広報活動が積極的に取り組まれていることが解ります。</p> <p>収益向上に向けた取り組み「3退院後の訪問指導体制の強化」の中の「5市民及び関係各所への周知」、「病院のホームページや広報誌の活用」が昨年の一部達成から達成へと進捗しています。</p> <p>患者サービスの充実「3待ち時間対策の強化」の中の「5各広報ツールを活用した地域住民への周知」については昨年度も達成でしたが、さらに令和元年度は「病院広報誌を全戸に配布」が追加され、広報活動が充実しています。</p> <p>他にも出前講座等院外における講演活動の実施の講座メニューの拡充などが達成されています。</p> <p>余談ですが、令和2年度広報10月号の市民病院特集は市民病院の実態を伝える効果的な特集だったと思います。「数字から見える事実 印象ではなく事実を知る」は説得力がありますし、ドクターの思いや病院の置かれている状況もよくわかりました。市民の皆さんが市民病院のことに好感を持ったのではないかと思います。</p>
5	<p>緊急での受診を経験。真夜中にもかかわらず、丁寧な診察と精密な検査をうけることができ、医療スタッフへの感謝の念と身近に市民病院があることの有難さを感じた。</p> <p>市民には安心できる場です。</p> <p>鼻を打撲し嗅覚に異常をきたした時に念のためにと開業医より市民病院での脳の検査を行った。また、眼科医より市民病院での手術を勧められた。連携が良く取れていると思われる。</p> <p>資料を拝読し、様々な計画を考え実践されておられると思います。</p> <p>しかしながら、病院だけの努力では難しいこともあるのだろうと感じました。</p> <p>日々困難な仕事に立ち向かいながら、職場の状況も厳しいものだと、職員の皆様の疲弊も懸念されますので、できる範囲での福利厚生の実践や精神面のケアがなされればよいと思います。</p>

## 5 今後の予定について

西尾市民病院改革プランの対象期間は、平成29年度から令和2年度までの4年間となっております。現時点において、国から新たなガイドラインが示されていない状況にありますので、現改革プランを1年間（令和3年度分）延長する方向で進めております。

令和3年度については、国の新たなガイドラインに従い、西尾市民病院改革プラン策定委員会（仮称）を立ち上げ、これまでに委員のみなさまからいただきました貴重なご意見を参考に、新しい改革プランを策定する予定をしております。